

(3) 関連文化財群の内容

① 港町の多彩な文化と景観

中世に港町が形成され、それが基盤となって発展し、今でも街並み等に中世の面影を残す特徴的な港湾都市・尾道の意義や可能性を踏まえ、港町の文化的景観を中心とした関連文化財群を設定する。

この関連文化財群は、大きく次のような点を中心に文化財を把握し、保存・活用することを意図している。

○中世からの港町・商都として尾道水道をはさんで形づくられた街の文化的景観と遺産

○向島、因島、瀬戸田地域などにおける港町の文化的景観と遺産

さらに、この関連文化財群を構成する小関連文化財群を、地域や文化財の特性、分布などを踏まえ、以下のように設定する。

●中世の港町の景観

尾道地域の旧市街地は、中世の建造物も多数存在する全国的にも希少な港町である。

特に、国宝である浄土寺多宝塔・本堂、重要文化財である浄土寺阿弥陀堂・山門、西國寺金堂・三重塔、天寧寺塔婆、西郷寺本堂・山門、常称寺本堂・観音堂・大門などは、寺院伽藍を特徴づけるとともに、一部はランドマークにもなっている。

街並みには、歴史的な地割も残っており、間口が狭く、奥行きがある商家、入り組んだ小路などは当時の面影をしのばせる。また、中世の建造物ではないが、海岸線には、港町を強く意識させる石造物や神社なども立地している。

さらに、瀬戸田地域の瀬戸田港を中心とした区域（以下「瀬戸田地区」という。）も中世から続く港町であり、歴史的な風情を感じさせる街並み景観を引き継ぐとともに、港町の背後の中腹に位置する国宝・向上寺三重塔は地区のランドマークにもなっている。瀬戸田地区の街並みにも、歴史的な地割や小路が良く残っており、対岸の高根島も含めて、港町の景観を色濃く表している。

この他、尾道市にある多くの港湾及び漁港が中世、近世の歴史を有するものであり、中世の建造物は未確認であるが、近世の建造物は幾つかの港湾、漁港で確認できるとともに、港町の風情を今に伝えている。

●近世の宿場町 尾道

尾道地域の旧市街地は、近世において西国街道が通り、宿駅が置かれた地であり、さらに、石見銀山につながる出雲街道の一方の起終点である。



浄土寺多宝塔 (国宝)



天寧寺塔婆 (重要文化財)



尾道の海岸

このため、中世より引き継いできた港町に加え、宿場町の性格を備え、交易・交流の拠点として一層の発展を遂げてきた。

こうした歴史を物語る近世の文化財も数多く残されている。また、尾道商店街の本通りは、西国街道と重なり、出雲街道沿いには、古い家屋が点在し、街道の面影をしのばせる。

※後述の「街道と宿場町 交易・交流の遺産」を参照

●港町に残る民俗芸能

尾道市には数多くの港町があり、それぞれにおいて衣食住や生業、信仰、年中行事等に関わる風俗習慣があるとともに、民俗芸能についても多くの港町で引き継がれている。

港町に関わる代表的な民俗芸能としては、足利尊氏とゆかりの深い吉和太鼓おどり、岩子島の管弦祭、瀬戸田のホーランエンヤ、ベッチャー祭（東土堂町）、祇園祭などがあり、中世あるいは近世から続く伝統的なものである。これらは、寺社に伝わる古文書でも確認することができる。

一方で、担い手の高齢化や後継者不足などで、行われなくなった民俗芸能が多数あるとともに、今後の継承が懸念される民俗芸能もあり、担い手の育成などが課題となっている。

●豪商が育んだ文化と遺産

港町における海運業や塩田経営などによる繁栄は、豪商を生み、地域の経済的発展と合わせて、文化を育て、建築や街並み、茶の文化などとして、今に引き継がれている。

代表的な建築としては、江戸時代の豪商・橋本家の別荘「爽籟軒」があり、茶室の「明喜庵」は京都山崎にある国宝「妙喜庵待庵」の写しとされ、市の重要文化財となっている。また、旧市街地の斜面地や島嶼部には、豪商が造った庭園（挹翠園・加島園・海物園など）が点在し、現在もその名残を感じることができる。

街並みでは、瀬戸田港周辺や瀬戸田町中野地区に、歴史的な建築物がまとまって立地し、特色ある景観を構成している。このうち中野地区は、柑橘などの栽培も早くから始められ、農村集落としての性格をもって明治から大正にかけて建築され、軒を連ねた港町とは異なる街並みとなっている。



商店街に位置する旧尾道商業会議所（現・尾道商業会議所記念館）



尾道ベッチャー祭



瀬戸田の街並み



瀬戸田・中野の街並み

●近代文学・映画と坂のまち

尾道市は、文学とつながりの深いまちであり、ゆかりの作家として林芙美子、高垣眸、横山美智子、行友李風、そして志賀直哉などがある。尾道が舞台の一つとなっている作品としては、『放浪記』（林芙美子）、『暗夜行路』（志賀直哉）が有名である。また、歌人としては、中村憲吉、山下陸奥、麻生路郎がいる。

アララギ派の歌人・中村憲吉が最晩年を送った旧居、志賀直哉が尾道に移り住んだ棟割長家（志賀直哉旧居）は今も現存している。また、尾道ゆかりの作家の文学碑を設置した「文学のこみち」のルートには民家を利用した「文学記念室」があり、中村憲吉旧居、志賀直哉旧居とともに、「おのみち文学の館」として活用している。

これらは、いずれも斜面市街地にあり、坂道とともに、特色ある景観と風情を醸し出している。

尾道市は、映画ともつながりの深いまちであり、小津安二郎監督の『東京物語』のロケ地の一つであり、尾道出身の大林宣彦監督は、尾道を舞台に数々の作品をつくっている。こうしたロケ地の多くが斜面市街地などにあり、坂のまちは、映画の重要な要素ともなっている。



文学記念室

<主な文化財の区分>

- 寺院や神社の建造物
- 近世・近代の商家や民家の建造物
- 常夜灯や五輪塔等の石造物
- 古文書
- 商人や町人の寄進による仏像等の美術工芸品
- 民俗芸能
- 庭園や茶園などの史跡・名勝
- 樹木などの天然記念物
- 街並みの小路、石垣
- 生活文化

<文化財を含む区域（港と港町）> ※未調査の港町を含む

- 尾道地域の港町：尾道港（尾道糸崎港）、尾道新浜（尾道糸崎港）、尾崎漁港（尾道糸崎港）、吉和漁港
- 浦崎地域：福田港、串浜漁港、海老漁港、泊漁港
- 向島地域の港町：歌漁港（尾道糸崎港）、大町漁港、干汐漁港、立花漁港
- 因島地域の港町：大浜港（中浜港）、中庄港（中浜港）、鏡浦漁港、棕浦港、三庄港（土生港）、小用港（土生港）、土生港（土生港）、宇和部港（土生港）、箱崎港（土生港）、田熊港（土生港）、金山港（土生港）、西浦漁港、重井東港・西港（重井港）、細島港（重井港）
- 瀬戸田地域（生口島）の港町：瀬戸田港（瀬戸田港）、垂水港（瀬戸田港）、福田港（瀬戸田港）、沢港（瀬戸田港）、中野港（瀬戸田港）、名荷港（瀬戸田港）、赤崎港（生口港）、洲江港（生口港）、原港（生口港）、御寺港（生口港）、宮原港（生口港）、荻港（生口港）

※港名の後の（ ）は港湾名。尾道糸崎港は重要港湾、その他は地方港湾



図 2-5 主要な港

② 水軍や海運の海道文化と遺産

瀬戸内海の存在とその関わりにおいて発展してきた歴史を踏まえ、水軍や海事に関わる関連文化財群を設定する。

この関連文化財群は、大きく次のような点を中心に文化財を把握し、保存・活用することを意図している。

○中近世の日本史にも登場する水軍に関わる遺構や古文書、民俗文化財

○北前船などの航路・寄港地に関わる遺構やそれを引き継いだ港湾施設、古文書、民俗文化財

さらに、この関連文化財群を構成する小関連文化財群を、地域や文化財の特性、分布などを踏まえ、以下のように設定する。

●水軍の遺産と文化

因島は、南北朝時代から戦国時代にかけて瀬戸内海で隆盛した因島村上氏の拠点であった。

このため、因島には、長崎城跡や美可崎城跡、青木城跡など数多くの水軍の城跡が島全体にわたって存在するとともに、因島村上氏歴代の墓なども残されている。

また、因島の西隣の生口島（瀬戸田）には、小早川氏に関わる生口水軍の拠点であった倭崎城跡、茶臼山城跡がある。



白滝山から青木城跡・馬神城跡を望む

●北前船の遺産と文化

北前船は、寛文年間（1661～1673）に開かれた、蝦夷地（北海道）と大坂とを日本海・瀬戸内海を通じてつなぐ航路を行き来する商船である。「弁財船」、「千石船」と呼ばれる木造船を用い、当時としては巨大船であった。

尾道は、下関と大坂とのほぼ中間点に当たり、北前船が頻繁に入港し、積み荷である蝦夷地の昆布、ニンジン、サケなどがおろされ、塩、碇、酢、綿、畳表、石材などが積み込まれていた。

こうした交易によって尾道は、広島城下をしのぐ繁栄をみせ、豪商も生まれ、地場産業も発展していった。

その遺産は、造船業や醸造業、およそ300年の伝統を持つ初市（初せり）などとして現在に引き継がれるとともに、力石や絵馬、酢を入れた徳利など有形・無形の文化財が残されている。

●歴史に培われた産業遺産（造船）と技術

尾道市は、瀬戸内海航路の中間点に当たり、古くから瀬戸内海航路の潮待ち・風待ちの港が多数存在し、漁業も盛んに行われていた。

このため、中世に水軍が隆盛する以前から、船を造っていたと考えられる。

また、近世に入り海運業で繁栄することになるが、必然的に船の建造・修理を伴うことになった。尾道町絵図(1821年)には、「船作事場」（船の修理場と推定）の記載がある。

こうした尾道市の立地性や船づくりの歴史と蓄積は、明治に入り近代造船業を興し、発展させることになった。とりわけ因島は、「造船の島」として発展し、多くの人口を擁していた。

こうした造船の歴史を持つ尾道市には、現在も戦前につくられたドックなどが機能している造船所があるとともに、使用されなくなった近代化遺産ともいえる機械などが多数存在する。

<主な文化財>

- 青木城跡、長崎城跡
- 村上家太刀、水軍の武器・道具類
- 因島村上家文書
- 棕浦法楽おどり

<その他、主な文化財の区分>

- 村上氏関係の城跡、武具、古文書、古地図
- 北前船などの寄港地(港湾施設)と関連する有形文化財
- 水軍や海運(北前船など)関わる民俗文化財
- 水軍や海運の歴史文化につながる産業遺産



図2-6 水軍や海運の海道文化と遺産

③ 港町や農山漁村の集落と民俗芸能

海や農耕との関わりなどによる数多くの神楽、年中行事、祭りなどの存在を踏まえ、集落（暮らし）と民俗芸能を中心とした関連文化財群を設定する。

この関連文化財群は、大きく次のような点を中心に文化財を把握し、保存・活用することを意図している。

○人々の暮らしの中から生み出され、継承されてきた海と農に関わる多彩な民俗芸能や技術

○民俗芸能が営まれる港町や農村の集落と関連する文化財

さらに、この関連文化財群を構成する小関連文化財群を、地域や文化財の特性、分布などを踏まえ、以下のように設定する。

●農村集落と民俗芸能

尾道市は、平成の大合併を通じて、島嶼部と合わせて内陸部（御調町）にも広がりを持つことになった。

内陸部では、なだらかな山地に抱かれた農村集落が形成され、田園や農家住宅、一部では棚田を見ることができ、里山の景観が息づいている。

一方、島嶼部においても、柑橘を中心とした畑が斜面地などに広がっており、農村的な集落と合わせて、特徴的な景観を形づくっている。

こうした集落では、暮らしの中で生み出され、継承されてきた民俗芸能が多数存在している。

農村部の民俗芸能のうち、みあがりおどりや神楽（ともに御調町）、小味の花おどり（原田町）、木ノ庄の鉦太鼓おどり（木ノ庄町）は県指定の無形民俗文化財であり、梶原八幡宮宮座（原田町）や猪子迫大獅子舞（美ノ郷町）は市指定の無形民俗文化財である。また、沿岸部の山波町の良神社の餅搗神事、山波とんど行事、神楽は、市の無形民俗文化財であり、農村集落の性格も表している。

●港町・漁村集落と民俗芸能

尾道市は瀬戸内海に面し、港町や漁村集落など海と密接な関係を持つまちであるが、平成の大合併によって島嶼部にも広がり、さらにその性格を強め、より多彩な文化財を有することにもなった。

前述の「港町の多彩な文化と景観」で示しているように、港町・漁村集落における数々の民俗芸能が引き継がれている。



山波とんど

<主な文化財>

- 吉原家住宅
- 農漁村の民家
- みあがりおどり、神楽、とんど
- 太鼓、鉦、装束、面

<その他、主な文化財の区分>

- 民俗芸能
- 民俗芸能に関わる民具
- 民俗芸能の舞台（神社、集落など）
- 農耕や漁撈に関わる民具や技術、習俗

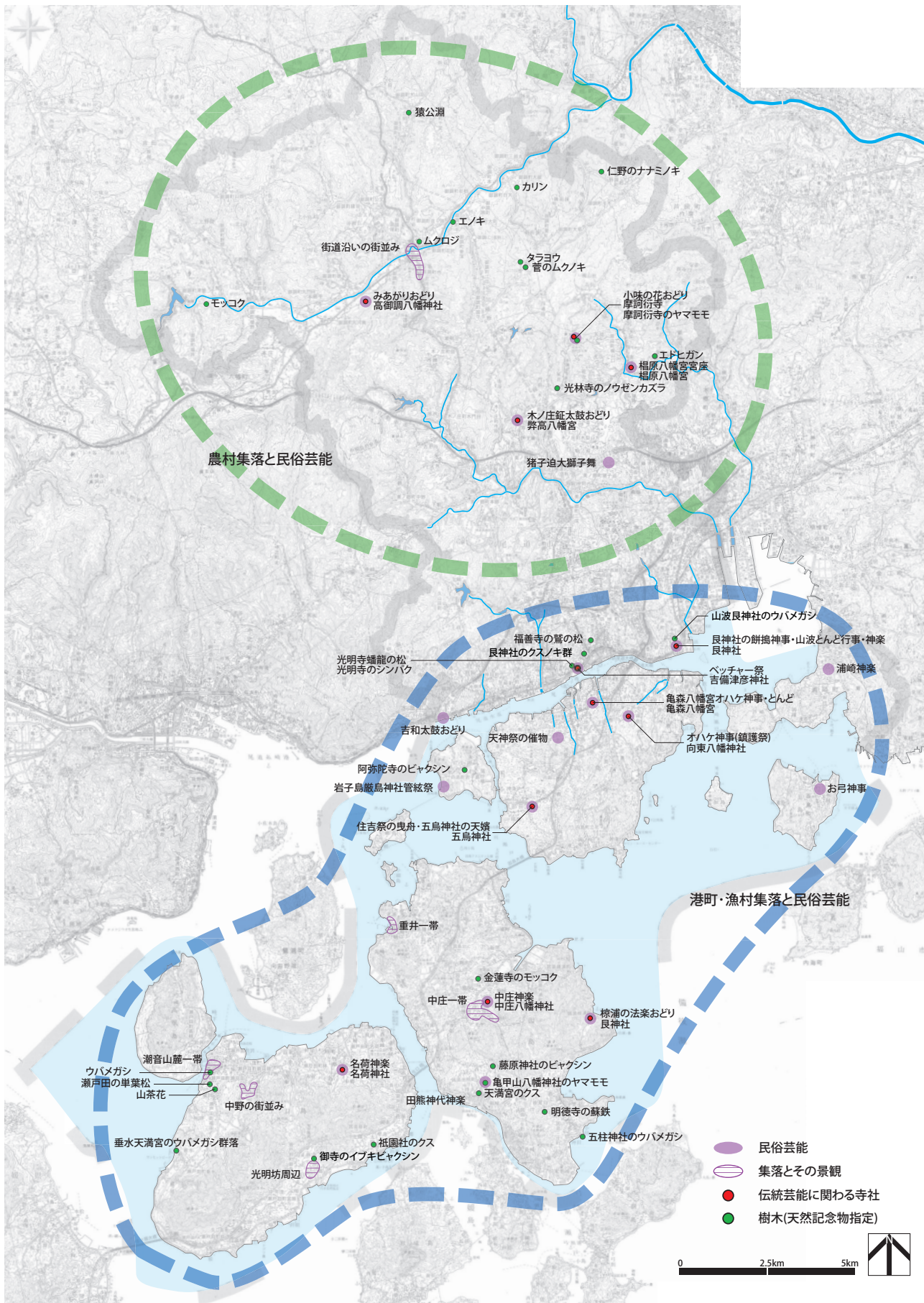


図2-7 港町や農山漁村の集落と民俗芸能

④ 街道と宿場町 交易・交流の遺産

この地域のみならず日本の歴史上も重要な役割を担ってきた山陽道や出雲街道、北前船の航路などの海道との結節を踏まえ、街道と宿場町、交易・交流の関連文化財群を設定する。

この関連文化財群は、大きく次のような点を中心に文化財を把握し、保存・活用することを意図している。

○古代山陽道や出雲街道に関係する文化財

○近代交通に関係する文化財

さらに、この関連文化財群を構成する小関連文化財群を、地域や文化財の特性、分布などを踏まえ、以下のように設定する。

●街道と宿場町の遺産

尾道市は、東西に山陽道が、南北に出雲街道が通る交通の要衝としての歴史を有する。このうち、山陽道については、古代は御調地域を、中世は尾道地域の北部を通っていたと推定され、近世は西国街道として沿岸部を通り、宿駅が置かれていた。

また、古代山陽道が通っていたと推定される御調地域の市地区も、出雲街道と結節する要衝であった。

このうち、西国街道と出雲街道のルート及び通り（街並み）は確認でき、道標等の文化財も一部残っている。

※前述の「港町の多彩な文化と景観」を参照

●近代交通の遺産

明治24年(1891)には、現在のJ R山陽本線である山陽鉄道が尾道まで延伸し、尾道駅が開業している。

また、大正14年(1925)には、内陸部と結ぶ軽便鉄道である尾道鉄道が西尾道～石畦、さらに大正15年4月、御調郡御調町市まで開通した。

こうした鉄道に関わる近代化遺産が多数残され、J R山陽本線では、鉄橋などが今も現役で使用されている。

※後述の「⑤ 地域に息づく近代化遺産」を参照



長江の出雲街道道標

<主な文化財>

- 西国街道、出雲街道
- 街道石標、常夜灯、石仏
- 本陣跡、一里塚、
- 辻堂、寺社の建造物
- 絵図

<その他、主な文化財の区分>

- 西国街道の遺構・ルート、関連する道標、神社仏閣
- 出雲街道の遺構、ルート、関連する道標、神社仏閣、街並み

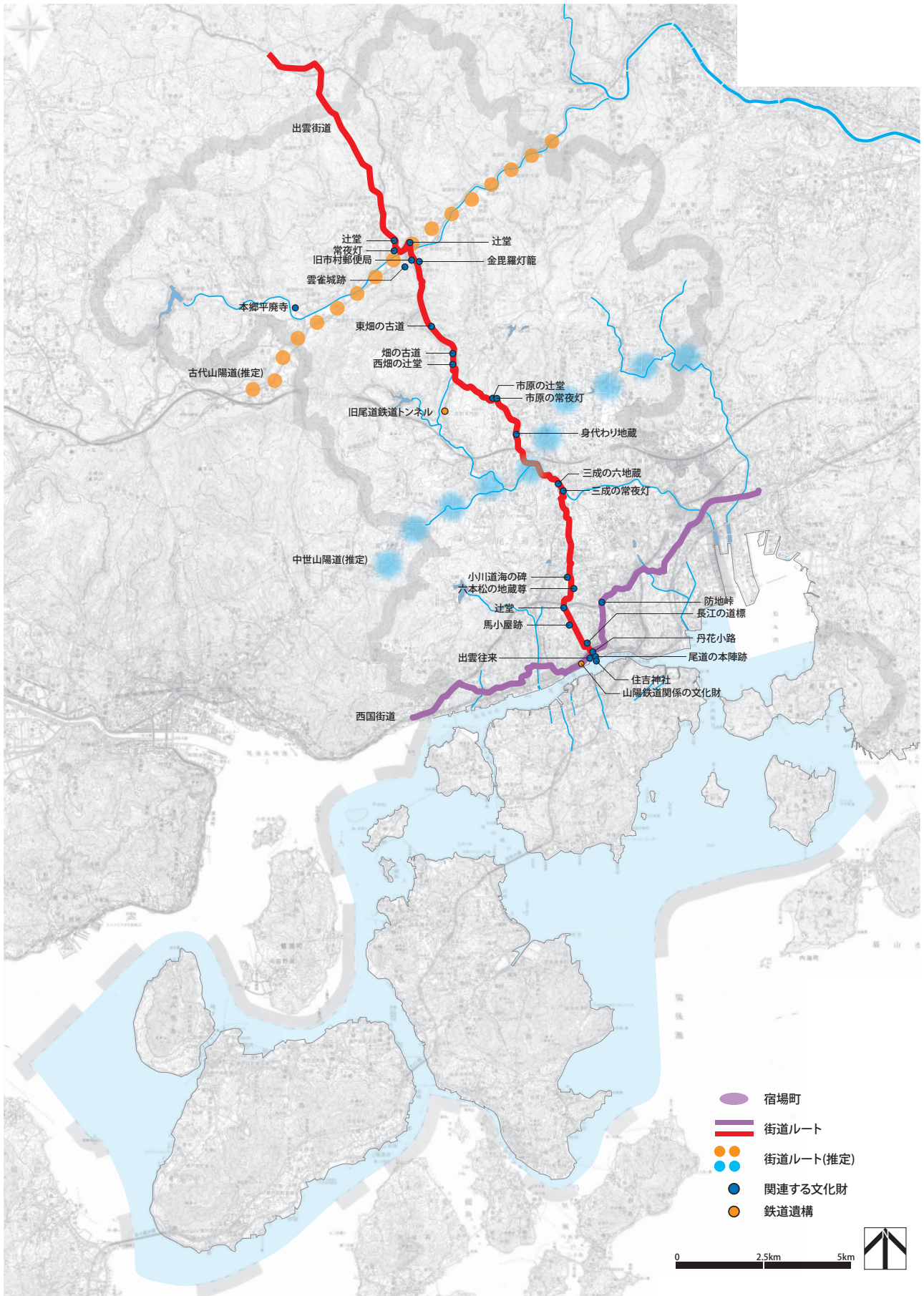


図2-8 街道と宿場町 交易・交流の遺産

⑤ 地域に息づく近代化遺産

尾道市は、広島県最初の銀行の設立をはじめ近代化を牽引した都市であり、現在でも数多くの近代化遺産が存在することを踏まえ、産業や暮らしに関わる近代化遺産を中心とした関連文化財群を設定する。

この関連文化財群は、大きく次のような点を中心に文化財を把握し、保存・活用することを意図している。

○産業発展を支えた近代化遺産

○暮らしを支えた近代化遺産

さらに、この関連文化財群を構成する小関連文化財群を、地域や文化財の特性、分布などを踏まえ、以下のように設定する。

●交通や物流を支えた近代化遺産（鉄道遺構、造船遺構、灯台）

尾道市は、近世において海運業などで繁栄し、そうした経済的基盤を背景に、明治に入ってもいち早く近代化の図られたまちである。

近代化に伴い、鉄道、港湾関連施設、学校、水道施設、銀行、商店、住宅（洋館、和洋折衷住宅）、造船所などが、近代技術や様式でつくられていった。

現在も、多数の近代化遺産があり、実際に使用されているものも少なくない。尾道市は近代化遺産の宝庫ともいえる。

このうち、交通や物流を支えた近代化遺産としては、JR山陽本線の尾道駅駅舎及び軌道の一部、旧尾道鉄道のトンネル、大浜埼灯台や通航潮流信号所、県営西御所上屋、造船所のドックや機械などが残されている。



旧尾道鉄道のトンネル



大浜埼灯台記念館



J R山陽本線尾道駅駅舎

●金融と商業を支えた近代化遺産（銀行等の近代建築、銀行・商業関係資料）

広島県で最初にできた銀行は、尾道において明治11年(1878)に設立された第六十六国立銀行であり、現在の広島銀行の起源でもある。

明治28年(1895)には、住友家の重役会議が尾道で開催され、住友銀行の設立が決まり、本店が同年9月に設立され、尾道支店も11月に開業している。明治37年(1904)に建てられた木造モルタル塗りの旧住友銀行尾道支店は、尾道市の施設として活用している。

また、明治28年(1895)には尾道貯蓄銀行も開設され、大正11年(1922)に尾道銀行と改名した。大正12年(1923)に建築された尾道銀行本店は、平成16年、市の重要文化財に指定され、さらに、建築当時に近い状況に改装し、「おのみち歴史博物館」として開館した。

尾道は商都としても発展し、尾道商業会議所の設立が明治25年(1892)に許可され、大正12年(1923)年には創設30周年の記念事業として、鉄筋コンクリートで建築された。それを復元改修し、尾道商業会議所記念館として開館している。

この他、尾道の市街地、商店街には、洋館の商店などが、現在も多数立地し、街並みを特徴づけている。



旧尾道銀行本店



旧尾道銀行本店を改修した「おのみち歴史博物館」



旧住友銀行尾道支店



旧尾道商業会議所を復元改修した「尾道商業会議所記念館」

●生活と教育を支えた近代化遺産（水道施設、学校等の近代建築、人物資料）

尾道の近代における発展過程では、交通や産業の基盤が整うとともに、生活関連の基盤や施設も整備されてきた。

現在でも尾道市の上水道を支える施設のうち、久山田貯水池堰堤、長江浄水場水井・緩速ろ過池・配水池は、大正4年(1925)に建造されたものであり、平成16年に国の登録有形文化財になっている。

学校も早くから鉄筋コンクリート造で建てられ、昭和8年(1933)建築の久保小学校や同12年建築の土堂小学校は、今でも校舎として利用されているとともに、昭和初期の学校建築の様式を今に伝える貴重な遺産でもある。

こうした生活と教育を支える近代化遺産は、それに関わってきた人々の記憶も伝える。上水道施設の建設を支援した山口玄洞（尾道市名誉市民）、土堂小学校（土堂尋常小学校）に通っていた林芙美子などの人物を知り、その足跡をたどることができる。



久山田貯水池堰堤



土堂小学校校舎

<主な文化財>

- 和洋折衷住宅
- 大浜崎灯台と関連工作物
- 旧住友銀行尾道支店
- 久保小学校などの学校建築
- 造船所クレーン

<その他、主な文化財の区分>

- 鉄道遺構、建造物（現役）：山陽鉄道、尾道鉄道の建造物
- 擬洋風建築物：銀行、商店等
- 造船・港湾関連近代化遺産
- 久山田貯水池及び長江浄水場
- 山波変電所



図2-9 地域に息づく近代化遺産

⑥ 尾道の生活文化

尾道市には、港町や商都、農村漁村の伝統的な産業や風物詩、食文化、囲碁の文化などが息づいていることを踏まえ、伝統的な産業や生活文化による関連文化財群を設定する。

この関連文化財群は、大きく次のような点を中心に文化財を把握し、保存・活用することを意図している。

○地域に息づく伝統的な産業や特産品、風物詩

○暮らしに息づく食文化や習俗（年中行事など）

さらに、この関連文化財群を構成する個別的なテーマ（小関連文化財群）を、地域や文化財の特性、分布などを踏まえ、以下のように設定する。

●尾道の伝統的な産業・特産品と風物詩

尾道市の特産品に関する伝統的な産業としては、農業・漁業や1次産品の加工、酢の醸造などがあげられる。

特産品づくりは、地域の風物詩でもあり、御調の菅野の串柿（柿すだれ）、島とミカン畑（収穫）はその代表であるとともに、かつては因島の除虫菊も広範囲に栽培されていた。また、約300年の伝統を守り続ける尾道浜間屋協同組合の初市も、年の初めを告げる風物詩となっている。



菅野の串柿

●尾道の食文化と習俗

尾道市は、海と山の両方の恵みを地産地消することができる地域であるとともに、北前船の歴史を引き継ぎ、昆布やニシン、ブリなど、北海道や北陸などの産物を取り入れる食文化も引き継いでいる。

また、「港町や農山漁村の集落と民俗芸能」で示しているように、数多くのおどりや神楽などがあるとともに、八朔（旧暦の8月1日に豊作を祈る週間）などの習俗が向島地域の一部で今でも行われている。

●塩と生活文化

近世における港町そして商都としての繁栄は、北前船を中心とした交易が背景にあるが、塩の生産と流通も大きくそれに寄与している。

干満の差の大きい瀬戸内地域では、近世に入ると各地に大規模な入浜式塩田がつくられ、塩の一大生産地であった。現在の尾道地域の沿岸部や向島、因島、生口島などにおいても塩田がつくられ、特に豪商による塩田開発が競って行われた。

こうした塩田開発と製塩業、そして流通・交易は、地域の繁栄、とりわけ豪商の富の蓄積につながり、前記の「港町の多彩な文化と景観『豪商が育んだ文化と遺産』」をもたらした。

一方、製塩業が衰退した後、塩田の多くは埋め立てられ工業・業務地などとなり、再び地域経済や雇用、生活を支えることとなった。

●豪商と生活文化

「港町の多彩な文化と景観『豪商が育んだ文化と遺産』」で示しているように、豪商の遺産は、建造物や街並みとして今に伝えられているとともに、茶の文化にもつながっている。

こうした豪商の有形・無形の遺産を、生活文化の観点からも捉え、その歴史を振り返り、また、現在に息づく空間や文化を体験できるまちが尾道市である。



爽籟軒茶室「明喜庵」

●芸術文化と尾道の風景“描かれた尾道”（文学、映画、絵画など）

尾道市は、数々の文学や映画の舞台となり、様々な場所が絵画に描かれている。

文学、映画については、「港町の多彩な文化と景観『近代文学・映画と坂のまち』」で尾道地域に関して記しているが、その他、文学では今東光の『悪名』、映画では新藤兼人監督の『裸の島』、山田洋次監督の『男はつらいよ』などのロケが行われている。

また、尾道市名誉市民である小林和作（洋画家）や平山郁夫（日本画家）によって、市内各地の風景が描かれている。そのうち、平山郁夫の描いた尾道の風景の幾つかは、デッサンの場所（視点場）に陶板で設置している。

この他、同じく名誉市民である圓鋸勝三（彫刻家）の作品が、圓鋸勝三彫刻美術館のほか市内の幾つかの箇所に設置されている。また、著名な彫刻家の作品が市内各所にあり、瀬戸田地域においては、屋外に現代アートを設置した「島ごと美術館」を構成している。



坂のまち・尾道の映画のロケ地（御袖天満宮）

<主な文化財の区分>

- 伝統的な産業及び産業施設や特産品
- 地域の風物詩
- 地域の食文化、茶の文化
- 囲碁の文化
- 年中行事

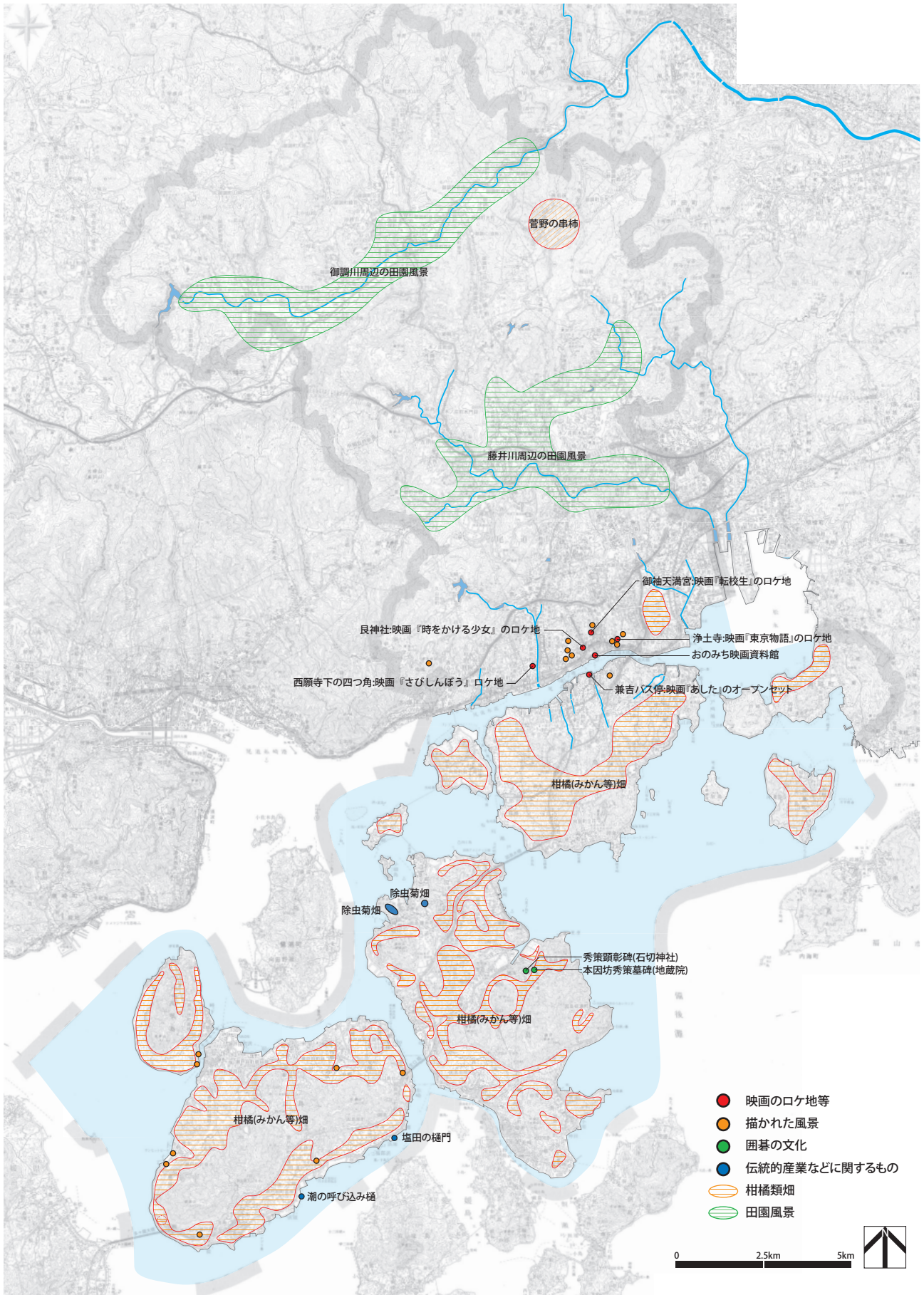


図2-10 尾道の生活文化

⑦ 全体テーマ“時のミュージアム・尾道”による関連文化財群の重層化

尾道市の文化財の特徴の一つは、歴史の重層性であり、とりわけ尾道の市街地では、街並み（空間）を通じて各時代の歴史文化を追体験できる特色を有している。

こうしたことを踏まえ、前記の6つの関連文化財群を時代ごとに捉え直し、それらの重層化による主要な文化財の活用を目指すため、下記のように「時のミュージアム・尾道」の3つの特色・魅力を引き出すことを前提に、関連文化財群における様々な時代の追体験の機会と場を生み出していく。

- 「様々な時代の文化財が重層する時間のもたらす特色と魅力」を引き出す。
- 「文化財が複合化・重層化する空間の特色と魅力」を引き出す。
- 「街道と海道の交わりなど、時間・空間の結節の特色と魅力」を引き出す。

<時代ごとの文化財の把握・整理と活用>

関連文化財群の時代と空間の重層化においては、まず、時代ごとの文化財の把握が必要であり、大きくは以下の区分から整理する。文化財の特性や分布などによっては、さらに時代区分を細分化することもある。

また、時代ごとに文化財のつながりを持たせながら、活用することを検討する。

- 古代尾道（あるいは古代以前）の遺産と文化
- 中世尾道の遺産と文化
- 近世尾道の遺産と文化
- 近代尾道の遺産と文化

<時代間での文化財のつながりを持った活用>

時代ごとの文化財を、重ね合わせながら、分かりやすく楽しく追体験したり、学んだりでき、かつ、時代を意識できるように、文化財の保存・活用に取り組む。

そのための機会や場としては、大きく次の2つが考えられる。

- 特定区域での“時のミュージアム・尾道”
 - ・広がりのある特定区域での多様な時代の歴史文化体験：尾道地域（旧市街地等）、因島地域、瀬戸田地域など
 - ・一つの敷地またはその近接地レベルでの多様な時代の歴史文化体験：浄土寺、常称寺など
- 尾道市全域または複数の地域における“時のミュージアム・尾道”
 - ・テーマによる時代横断的な文化財めぐり：民俗芸能や行事、港町の歴史と文化 など
 - ・ルートによる時代横断的な文化財めぐり：瀬戸内しまなみ海道、西国街道、出雲街道 など

<“時のミュージアム・尾道”の情報発信と普及・啓発→実際の行動喚起>

“時のミュージアム・尾道”に関する冊子等やホームページの作成、講演会などを通じて、広く情報発信するとともに、普及・啓発に努め、歴史探訪や体験学習などの実際の行動・活動につないでいく。

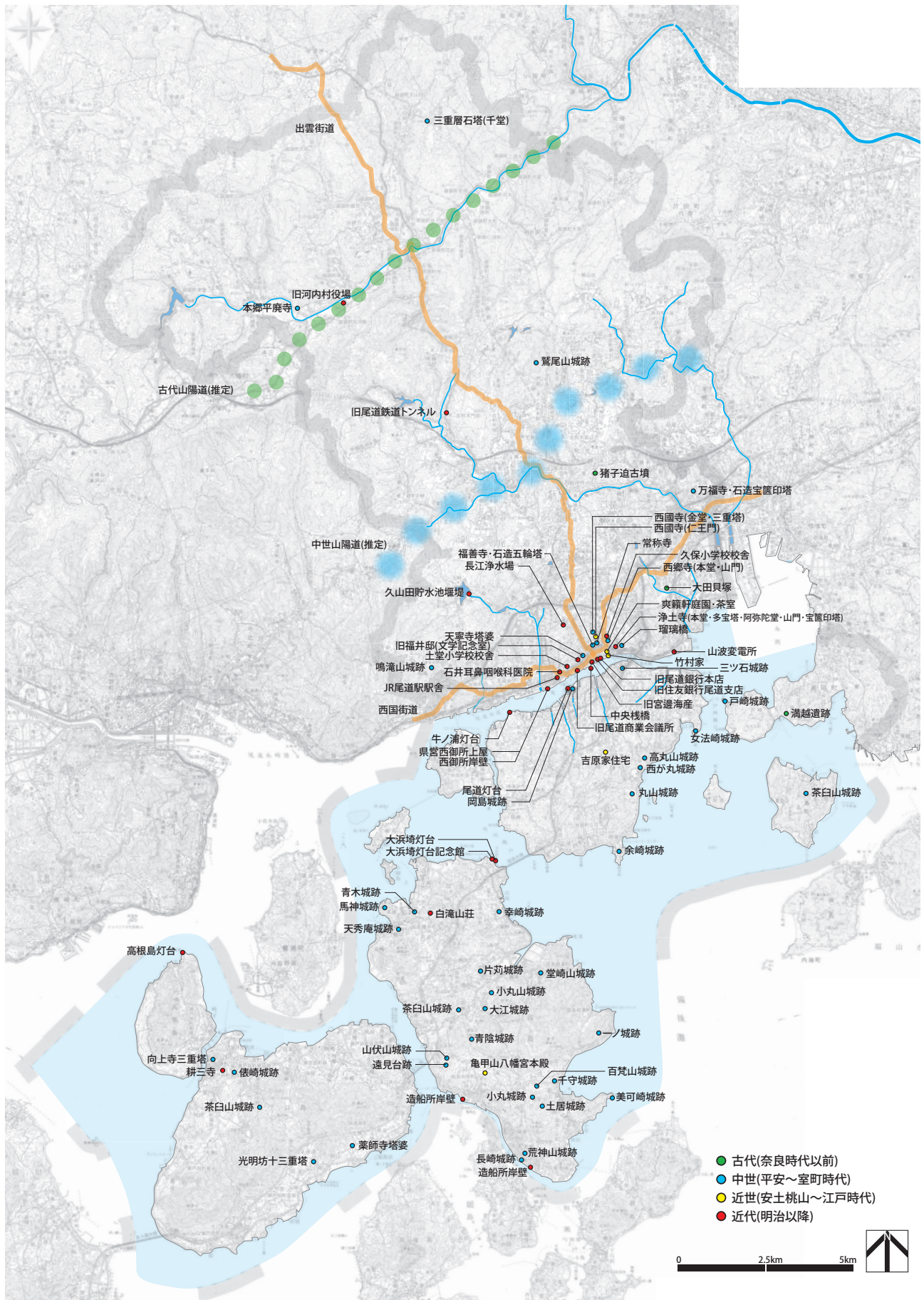


図2-11 時のミュージアム・尾道（時間と空間が織りなす文化の重層・結節）のイメージ

関連文化財群	小関連文化財群	主な文化財 文化財を含む区域など	全体テーマ 【時のミュージアム・尾道】 時間と空間が織りなす文化の重層・結節
<p>【港町の多彩な文化と景観】 港町の文化と景観を中心とした関連文化財群</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●中世の港町の景観 ●近世の宿場町 尾道 ●港町に残る民俗芸能 ●豪商が育んだ文化と遺産(豪商と生活文化…下記「尾道の生活文化」) ●近代文学・映画と坂のまち 	<p><主な文化財の区分></p> <ul style="list-style-type: none"> ・寺院や神社の建造物 ・近世・近代の商家や民家の建造物 ・常夜灯や五輪塔等の石造物 ・古文書 ・商人や町人が寄進した仏像等の美術工芸品 ・民俗芸能 ・庭園や茶園などの史跡・名勝 ・樹木などの天然記念物 ・街並みの小路、石垣 ・生活文化 <p><文化財を含む区域></p> <ul style="list-style-type: none"> ・尾道水道に面した港町・商都、瀬戸田港周辺 ・その他尾道地域（旧尾道）の港町：吉和漁港、海老漁港、福田港 ・向島地域の港町：歌漁港、干汐漁港、立花漁港 ・因島地域の港町：大浜港、鏡浦漁港、椋浦港、三庄港、土生港、箱崎港、金山港、西浦漁港、重井港（東・西）、細島港 ・瀬戸田地域の港町：瀬戸田港、名荷港、宮原港、御寺港、荻港、垂水港、福田港、赤崎港、洲江港 	<p>○様々な時代の文化財が重層する時間のもたらす特色と魅力</p> <p>○文化財が複合化・重層化する空間の特色と魅力</p> <p>○街道と海道の交わりなど、時間、空間の結節の特色と魅力</p> <p>（～古代）</p> <ul style="list-style-type: none"> ●中世尾道の遺産と文化 ●近世尾道の遺産と文化 ●近代化の遺産と文化（現代）
<p>【水軍や海運の海道文化と遺産】 水軍や海事に関わる関連文化財群</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●水軍の遺産と文化 ●北前船の遺産と文化 ●歴史に培われた産業遺産（造船）と技術 	<p><主な文化財></p> <ul style="list-style-type: none"> ・青木城跡、長崎城跡 ・村上家太刀、水軍の武器・道具類 ・因島村上家文書 ・椋浦法楽おどり <p><その他、主な文化財の区分></p> <ul style="list-style-type: none"> ・村上氏関係の城跡、武具、古文書、古地図 ・北前船などの寄港地（港湾施設）と関連する有形文化財 ・水軍や海運（北前船など）に関わる民俗文化財 ・水軍や海運の歴史文化につながる産業遺産 	
<p>【港町や農山漁村の集落と民俗芸能】 集落（暮らし）と民俗芸能を中心とした関連文化財群</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●農村集落と民俗芸能 ●港町・漁村集落と民俗芸能 	<p><主な文化財></p> <ul style="list-style-type: none"> ・吉原家住宅 ・農漁村の民家 ・みあがりおどり、神楽、とんど ・太鼓、鉦、装束、面 <p><その他、主な文化財の区分></p> <ul style="list-style-type: none"> ・民俗芸能 ・民俗芸能に関わる民具 ・民俗芸能の舞台（神社、集落など） ・農耕や漁撈に関わる民具や技術、習俗 	

参考：関連文化財群の全体構成（2／2）

関連文化財群	小関連文化財群	主な文化財 文化財を含む区域など	全体テーマ 【時のミュージアム・尾道】 ※前頁と同様	
<p>【街道と宿場町 交易・交流の遺産】 街道と交易・交流の関連文化財群</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●街道の遺産と面影 ●宿場町の遺産と面影 	<p><主な文化財></p> <ul style="list-style-type: none"> ・西国街道、出雲街道 ・街道石標、常夜灯、石仏 ・本陣跡、一里塚 ・辻堂、寺社の建造物 ・絵図 <p><その他、主な文化財の区分></p> <ul style="list-style-type: none"> ・西国街道の遺構・ルート、関連する道標、神社仏閣 ・出雲街道の遺構・ルート、関連する道標、神社仏閣、街並み 		⇄
<p>【地域に息づく近代化遺産】 産業や暮らしに関わる近代化の遺産を中心とした関連文化財群</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●交通や物流を支えた近代化遺産 ●金融と商業を支えた近代化遺産 ●生活と教育を支えた近代化遺産 	<p><主な文化財></p> <ul style="list-style-type: none"> ・和洋折衷住宅 ・大浜崎灯台と関連工作物 ・旧住友銀行尾道支店 ・久保小学校などの学校建築 ・造船所クレーン <p><その他、主な文化財の区分></p> <ul style="list-style-type: none"> ・鉄道遺構、建造物（現役）：山陽鉄道、尾道鉄道の建造物 ・擬洋風建築物：銀行、商店等 ・造船・港湾関連近代化遺産 ・久山田貯水池及び長江浄水場 ・山波変電所 		⇄
<p>【尾道の生活文化】 地域に息づく伝統的な産業や生活文化による関連文化財群</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●尾道の伝統的な産業・特産品と風物詩 ●尾道の食文化と習俗 ●塩と生活文化 ●豪商と生活文化（豪商が育んだ文化と遺産） ●芸術文化と尾道の風景“描かれた尾道”（映画、絵画、文学） 	<p><主な文化財の区分></p> <ul style="list-style-type: none"> ・伝統的な産業及び産業施設や特産品 ・地域の風物詩 ・地域の食文化、茶の文化 ・囲碁の文化 ・年中行事 	⇄	